

# 彼方小だより

家庭数配布

富田林市立彼方小学校

令和3年冬休み号

いち よう らい ふう  
「一陽来復」

校長 藤井 貞彦

長かった2学期も明日で無事に終われそうです。行事についても運動会・日曜参観・修学旅行と制約はありましたが実施することが出来ました。

明後日からは子どもたちが待ちに待っていた冬休みです。楽しい行事が続きますが、それと同時に家族の一員としてしっかりと自分の役割を果たしてほしいと思っています。



さて、昨日(22日)は冬至でした。北半球では昼間の長さが一年で最も短い一日です。冬至は別名「一陽来復(冬が終わり春が来ること)の日」とも言われています。太陽の力が最も弱まる日で、この日を境に再びよみがえってくるという前向きな意味があり、それに伴って運氣も上昇するとされています。冬至には「かぼちゃ」を食べる風習があるのですが、皆さんはその理由を御存じですか? そういう私も冬至の日には「そんなもんなんや」と何の疑問も持たずにかぼちゃ料理を口にして、ごきげんさんで「ゆず湯」に入っていました。そこで、冬至とかぼちゃの関係について調べてみました。

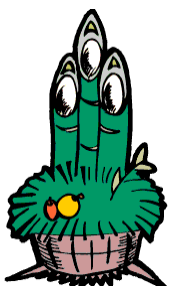
その理由とは、かぼちゃが長期保存できるからということなのです。そもそも「冬至にかぼちゃを食べる」風習は江戸時代の中頃に根付いたと言われています。その頃は今と違って野菜を一年中食べることは難しかったのです。特に冬場は野菜が不足していました。そんな厳しい時期を栄養豊かなかぼちゃを食べることで元気に乗り切ろうという江戸時代の人たちの思いが込められているのです。

また調べている中で「冬の七草」という言葉もを見つけました。春・秋の「七草」は有名ですが「冬の七草」は初めて知りました。次にあげる七つです。

- ①なんきん(かぼちゃ) ②れんこん ③にんじん ④ぎんなん ⑤きんかん  
⑥かんでん ⑦うどん(うどん)

この七つを見て何か気づくことはありませんか?

「かんでんやうどんは草なのか?」確かにそうですが、それはひとまず置いておきましょう。そうです、ぜんぶ(ん)が二つある食べ物ですね。(わざと平がなで書いてみました。)これらは運(ん)を呼び込む「運盛りの野菜(食べ物)」といわれ、冬至を境に運を盛り返すという意味でも「かぼちゃ」が食べられるようになったといわれています。栄養面だけでなく「一陽来復」の願いもしっかりと込められているのです。



コロナウィルス感染症の流行から約2年になろうとしています。ここしばらくは感染状況も落ち着いていますが、まだまだ安心できる状況にはなっていません。今後も同じような状況が続くと思われませんが、「一陽来復」で来年こそは明るい方向に向かう年になってもらいたいものですね。年末は厳しい寒波が来るとの予報も出ています。お体に気をつけて、良いお年をお迎えください。